
 学 会 記 事

平成 30 年度新潟精神医学会

日 時 平成 30 年 10 月 13 日 (土)
午後 2 時 30 分～午後 6 時
会 場 新潟グランドホテル

I. 一 般 演 題

1 高齢発症の嫉妬妄想にドネペジルが奏功した 1 例

恩田 啓伍¹⁾²⁾・折目 直樹¹⁾
横山 裕一¹⁾・染矢 俊幸¹⁾

新潟大学医歯学総合病院精神科¹⁾
魚沼基幹病院精神科²⁾

【はじめに】高齢者の妄想は、Alzheimer 型認知症や Lewy 小体型認知症など認知症圏で出現することが多い。嫉妬妄想の有症率は全精神疾患中の 1% 以下とまれであるが、認知症群においては有症率が高い。高齢者の妄想の治療については一定の見解はまだないが、今回われわれは高齢発症の妄想に対してドネペジルが奏功した 1 例を経験したので報告する。

【症例】85 歳、男性、真面目で几帳面な性格であった。習慣飲酒の量が多く、40 代の頃は 1 日に日本酒を 8 合程度摂取していた。50 代以降は節酒し、焼酎 2 杯程度を続けていた。糖尿病や慢性腎不全、脂質異常症の既往があり、72 歳時と 79 歳時に慢性硬膜下血腫の治療歴があった。X-6 年 (79 歳) 頃から認知機能が緩徐進行性に低下し、対人交流が減少した。その頃からヘリコプターを見て「警察に追跡されている」などと被害妄想が出現した。A 病院で MRI や MRA を施行されたが異常は指摘されなかった。X 年 3 月には「夜に妻の部屋に若い男性が来て不貞行為を行っている」などの嫉妬妄想が出現した。X 年 6 月に精査目的に B 病院精神科を初診し、特定不能の統合

失調症スペクトラム障害の診断でアリピプラゾール 3mg を開始された。同 12mg に増量されたが、眠気のため自己中断し、その後はリスペリドン 1mg に変更された。しかし、症状の改善がないため、X 年 8 月に B 病院精神科に医療保護入院した。入院時点では、会話の迂遠さがあり、HDS-R 27 点、MMSE 25 点、COGNISTAT にて見当識、注意で重度障害、構成、記憶で軽度障害域といった結果が認められた。入院後も妄想は持続していたが、リスペリドンをドネペジル 5mg に変更されたところ、次第に妄想は訂正可能なほどに軽減し、X 年 10 月に退院した。また、その時点では HDS-R、MMSE、COGNISTAT いずれでも著明な改善を認めていた。

【考察】認知症患者における妄想の有症率は高く、認知症の種類と妄想のタイプには一定の傾向がある。従って、妄想を理解することは認知症の治療選択を考える上での一助となり得る。認知症に伴う妄想に対する薬物療法としてはコリンエステラーゼ阻害薬 (ChEI) のエビデンスが高く、ChEI による前頭葉や辺縁系の血流改善効果が期待されている。また、非定型抗精神病薬 (AAP) の使用は副作用の観点から慎重になるべきであり、本例の実行機能低下は AAP による副作用だった可能性も考えられた。

2 パーキンソン病を併発した統合失調症の 1 例

湯川 尊行¹⁾・寺島 健史²⁾・井上 絵美子¹⁾
有波 浩¹⁾³⁾・恩田 啓伍¹⁾

魚沼基幹病院精神科¹⁾
新潟大学医歯学総合病院
魚沼地域医療教育センター神経内科²⁾
新潟大学大学院医歯学総合研究科
精神医学分野³⁾

【はじめに】パーキンソン病は 50～60 歳代に多く発症し、脳や末梢自律神経系の神経細胞が変性する神経変性疾患である。動作緩慢、振戦、筋強剛、姿勢保持障害などの運動症状と、嗅覚障害、自律神経症状、精神症状、認知機能障害、睡眠障害等の様々な非運動症状がみられる。統合失調症